

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手であると同時にグローバル社会にも対応できる人材を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

1. 基本的な生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。
2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力を身につけた生徒を育成する。
3. 教職員の資質向上を図るとともに生徒のモチベーションを高め、ものづくり教育を推進する。
4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった、社会ひいては世界に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな人間性の育成・社会性の醸成

(1) 人権感覚豊かな心の育成及び社会の秩序・ルールを確実に守る規範意識の醸成

ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。

遅刻数について500台を目標として努力する。(H29 702、H30 601、R01 688)

イ いじめの予防に重点を置き、安心安全な学校づくりに努めるため、学期ごとに生徒に対しアンケートを実施する。

(2) 美化・清掃活動の強化による規範意識の醸成

ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。

生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度(H29 53%、H30 55%、R01 44.4%)を令和4年度には70%にする。

(3) グローバル人材の育成

ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を育成する。

海外の複数の高校との交流を推進する。

2 確かな学力への取組みと進路保障

(1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。

ア 平成30年度入学生より変更したカリキュラムの趣旨に添い、基礎学力の充実を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。

外部テスト「基礎力診断テスト」における最下位層の人数を減少させる。

生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定度(H29 74%、H30 74%、R01 68.6%)を令和4年度までに80%以上にする。

生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく楽しい」に関する項目における肯定度(H29 59%、H30 66%、R01 57.8%)を令和4年度には80%以上にする。

確かな学力の一層の定着を図り、就職一次内定率(H29 85%、H30 88.4%、R01 82.4%)、年度末内定率(H29 100%、H30 100%、R01 100%)については維持し、3年後の離職率[判明分](H29 17%、H30 29.7%、R01 18.9%)を減らすよう努める。

(2) 生徒の自己実現への支援

ア 人権相談部による人権教育・教育相談体制の充実並びに支援教育コーディネーター等による要配慮生徒へのサポート体制の充実

イ 3年間を見通した進路指導の充実

3 ものづくり・地域連携等を通じたキャリア教育の充実

(1) ものづくりのための実践的技術力の向上

ア 企業が求める資格の調査・精査と資格取得の奨励並びに講習会の充実

資格取得の推奨、講習会の充実により、検定試験の受験者数(H29 1134人、H30 742人、R01 649人)を増やし、合格率(H29 68%、H30 59.3%、R01 57.8%)を高める。

(2) ものづくり教育を充実させ、ものづくりニッポンの担い手としての自覚をもつ生徒を育てる。

ア 生徒による校内企業「城工房」等により、生徒が主体的にものづくりのプロセスを体験する機会を増大する。

イ 地元企業等との連携やインターンシップ等を活用し、各種競技会への参加機会を増大する。

ウ 小中学校や行政機関と連携した小中学生対象の「ものづくり教室」や「出前授業」を行い生徒の外部交流への参加や発表の機会を増大する。

成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数(H29 26回、H30 30回、R01 32回)を増やす。

(3) 地域産業連携重点型校として、ものづくりを通して地域貢献と保護者との連携により地域に根ざした学校づくりを推進する。

ア 地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。

地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城工メッセ」(地元企業紹介イベント等)の充実・発展を図る。

地元企業の協力のもと、地元を中心とした中学生とその保護者に対して地域で学び地域で働くキャリアモデルを示し、地域に根ざした学校づくりをめざす。

イ 保護者と学校が一体となった学校づくりを行う。保護者のものづくり教育への理解を深めるために、PTAと連携した事業に取り組む。

4 学校改編の推進

(1) PBL(Project-Based Learning 課題解決型学習)に係る教育課程の編成・実施を推進する。

(2) PBLに係る課題解決型授業を推進する。

(3) PBLに係り、地元企業と連携し、企業見学やインターンシップ等の充実を図る。

(3) 企業見学やインターンシップ等、これまで取り組んできた地域連携をPBLに活用する仕組みを構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな人間性・社会性の醸成	(1) 人権感覚豊かな心の育成、社会の秩序・ルールを守る規範意識の醸成 (2) 美化・清掃活動の強化 (3) グローバル人材の育成	ア・生徒会、部活動部員等生徒を主体とした「あいさつ運動」の実施 ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年等の連携による早朝登校指導の推進 ・3年間を見通した人権ホームルーム計画の策定・実施 ・新入生オリエンテーション等の機会に、特活部を中心に部活動紹介を実施。部活動部員からの勧誘等で部活動加入を奨励 ・働き方改革の一環として複数配置した部活動顧問同士の連携強化を図り、ゆとりを持って部活動を見る体制を確立することで、超過勤務時間の縮減を図る。 ・「図書部」を活用した、生徒への啓蒙活動活性化による生徒読書量の増加 イ・教員間の情報共有を密にして、いじめの予兆を察知するとともに、予兆段階から生活指導上の厳しい指導を実施 ア 保健部、学年、生徒会等の連携で美化・清掃活動の推進 ア 海外高校生の受入れ実施	ア・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 90% (R01 90.8%) ・総遅刻数 500 台をめざす (R01 688) ・生徒向け学校教育自己診断の「人権教育の充実」肯定的回答 80% (R01 77.6%) ・5月末段階の部活動加入率 65% (R01 65%) ・一人あたりの平均超過勤務時間を昨年度より減ずる。 ・年間図書館来館者数の維持、貸し出し冊数の増加 (R01 3,145 人、319 冊) イ・学年連絡会議 (学年統括首席・学年主任・教育相談係で毎週開催) での情報交換と、いじめアンケートによるいじめの予兆察知件数 10 件以上 (R01 102 件) ア 生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 60% (R01 44.4%) ア 受入れ校数 3 校以上 (R01 4 校)	
2 確かな学力への取組みと進路保障	(1) 基礎学力の定着と「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善の取組み (2) 生徒の自己実現への支援	ア・外部テストの全校実施と学力向上への活用 ・生徒の学力向上意識の高揚 ・教員相互の授業見学の推進 ・研究授業・研究協議による授業の改善 ア・教育相談体制の充実 ・支援教育コーディネーターと生活指導部・保健部との連携を強化し、配慮を要する生徒へのサポート体制の充実を図る イ・就職指導で各クラスへの担当教員配置による責任所在の明確化。加えて面接指導における進路部と学年の連携強化 ・学年 HR 係と進路部との連携強化により望ましい勤労観・職業観を身につける HR 活動の充実	ア・外部テストの結果、1年 2年、2年 3年の経年変化による D3 ゾーンの減少 (R01 1年 136 2年 91 3年 101) ・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定的回答 80% (R01 68.6%) ・教員全員が授業見学を実施 (R01 約 97.5%) ・研究授業・研究協議の 5 回以上実施 (R01 8 回) ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的回答 70% (R01 57.8%) ア・相談室を週 5 日開室 ・支援教育コーディネーターによる配慮を要する生徒及び保護者への面談を確実に実施 (R01 7 回) イ・就職一次内定率 80% 以上 (R01 82.4%) ・年度末の就職率 100% (R01 100%) ・生徒向け学校教育自己診断「就職・進学の指導や説明」肯定的回答 80% 以上 (R01 82.9%)	
3 ものづくり・地域連携・キャリア教育の充実	(1) ものづくりのための技術力の向上 (2) 日本のものづくりを担うことへの自覚と責任感の醸成 (3) ものづくりを通じた地域貢献・保護者との連携による地域に根ざした学校づくりの推進	ア 企業の求める資格の調査・精査と生徒への資格取得の推奨。講習の充実 ア・生徒による校内企業「城工房」等の地域交流や各種競技会等への生徒の参加 ア・地域連携中核コンソーシアムによる「城工メッセ」(地元企業紹介イベント等)の充実 ・地域に根ざした学校づくりの推進 イ ものづくり教育への理解と深化を図るための保護者対象実習体験の実施	ア 資格試験受験者数 650 人以上 (R01 649 人)、合格率 70% (R01 57.8%) ア・「城工房」その他による成果発表の場、種々競技会、産業教育フェア、地域イベント等への参加・実施・出展回数 30 回以上 (R01 32 回) ア・「城工メッセ」来場者数 250 人以上 (R01 251 人) ・地元企業と連携した学校説明会の実施 イ・PTA 実習研修の実施 ・PTA 授業見学会の実施	
4 学校改編の推進	(1) 教育課程の編成・実施 (2) 課題解決型授業の推進 (3) 企業見学等の充実	ア・PBL (Project-Based Learning 課題解決型学習) に係る教育課程の編成・実施 ア・PBL に係る課題解決型授業の推進 ア・これまで取り組んできた地域連携を PBL に活用する仕組みの構築	ア・PBL に係る工業技術基礎等における教育課程の編成・実施を推進する。 ア・PBL に係る課題解決型の研究授業を実施する。 ア・地元企業と連携し、企業見学やインターンシップ等の充実を図る。	